

●活動報告

～自主大会としての再スタート～

第21回「青少年のための科学の祭典」2012全国大会 開催

2012（平成24）年7月28日（土）、29日（日）、第21回となる「青少年のための科学の祭典」2012全国大会を無事に開催することができました。全くの自主大会としての開催は今回が初めてとなりました。全国の実験名人による個人出展（36）、企業や団体、大学など団体出展（22）、また日本学生科学賞研究発表会（10）に加え、学校における放射線教育の事例発表の出展（4）も行いました。

ロンドンオリンピック開催も重なったせいか、今年の来場者は2日間で11,110名でした。

*（ ）内の数字は出展数です。

●自主大会としての第一歩

今まで20年間、「青少年のための科学の祭典」全国大会は、文部科学省や独立行政法人科学技術振興機構（JST）からの委託事業や支援事業として、また、同様に20年間にわたり協賛をいただいていた電気事業連合会の支援を受けて「青少年のための科学の祭典」を全国各地方へと展開してきましたが、今回はこれらの支援が全くない状態での「自主大会」として開催することになりました。

しかし、理系人材育成にご理解のある企業・団体からの協賛や、CSR活動の一環として団体出展のご協力をいただき、そして、個人出展者の多くの方々にも一部自己負担をいただきまして、今回の開催に至りました。

受け入れ側のスタッフにももちろん経費の節減が求められ、今年は財団内各部署の多くの職員が会場のあちらこちらでスタッフとして奔走し、盛り上がる祭典現場を支えました。

また今回は、昨年まで実施した出展者のための事前研修会の開催はできませんでしたが、多くの教育関係者の方から問い合わせをいただき、研修会の重要性を改めて感じました。

●日本学生科学賞研究発表会

読売新聞社のご協力で、第55回日本学生科学賞中央最終審査会出場研究作品から、中学校6校、高等学校4校の出展と発表を行いました。内閣総理大臣賞や文部科学大臣賞などを受賞した優れた研究作品は、来場した多くの学生や教育関係者の方の目にとまり、研究内容や発表方法の参考となるものばかりでした。

●学校における放射線教育事例発表

新学習指導要領では放射線の性質と利用について触れることが求められており、また、国民全体としても放射線に対する正しい知識と理解が求められていることから、学校における放射線教育を実施している先進事例をポスターセッションとパネルディスカッションにより発表していただきました。教育関係者の方には、学校での放射線教育授業の進め方のよい参考としていただけたものと考えております。

「青少年のための科学の祭典」開催にご協力をいただきました皆様に厚く御礼を申しあげるとともに、今後ともご支援を賜りたくお願い申し上げます。

〈振興事業部〉



【科学の祭典オープニング】
実行委員長の片江 安巳氏よりごあいさつ
(本誌P3巻頭言もご覧ください)



【ブース体験】
子どもたちが真剣に実験工作に取り組んでいる



【日本学生科学賞研究発表会】
日本学生科学賞中央最終審査会出場研究作品



【学校における放射線教育事例発表】
ブースでのポスターセッション